

国語

I

出典

蔵田伸雄「木は法廷に立てるか——生物を尊重するとはどういうことか」〈五 非——人間中心主義と生物の内在的価値〉（池田透編著『生物という文化——人と生物の多様な関わり』北海道大学出版会）

解答

- 問1 1—④ 2—② 3—② 4—③ 5—① 6—⑤
- 問2 ア—② イ—④ ウ—③ エ—① オ—⑤

- 問3 ⑤
- 問4 A—② B—⑤ C—① D—④ E—③
- 問5 ③
- 問6 ①
- 問7 ⑤
- 問8 ②
- 問9 ①
- 問10 ⑤

問3 空欄Dの直前に「この非―人間中心主義のレベルでは、人間にとって利益のない種であっても、絶滅を防がなければならぬ」とあり、その後で、具体例として「生態系のバランスを守るために…増え過ぎた生物（たとえば北海道におけるエゾシカ）を殺すことは許される」とある。⑤の内容が合致している。

問5 空欄Iの直前の「この三つのレベルの考え方に共通する」に着目する。第一段落で、「生物の保護」に関する「三つのレベル」が紹介され、第二段落で「このいずれのレベルで考えるときでも…『非―人間中心主義』の立場になる」と説明している。

問6 空欄IIの直前の「人間中心主義的な説明では、自然の価値を人間にとっての利益（特に経済的利益）に還元していることになりませぬ」から考える。「人間にとっての利益」について言及している選択肢は①である。

問7 空欄Dを含む段落で「生態系に着目する立場」について触れ、「生態系というシステム全体に対する配慮が必要だと考えられるようになってきた」と説明している。⑤の内容が合致している。①・②・④は、人間にとっての利益に還元する立場なので、不適。③は「人間の利益とは関わりが無い価値が存在する」としているが、「生態学の研究…明確に説明された」わけではないし、「生態系の破壊」とは関係ない。

問8 傍線Cの直後に「人間は自然界の中で特殊な存在ではなく、あくまでも一つの生物種に過ぎないという理解が広まってきました」「すべての生物種でDNAは同じ塩基によって作られていることがわかりました」とあることから考える。

問9 最終段落で「すべての生物に『内在的価値』があると証明することは困難」「哲学的環境倫理学の中では…『弱い人間中心主義』と呼ばれています」「『弱い』人間中心主義の立場をとりながらも、動物の『福祉』も尊重することが望ましい」という見解を示している。①が合致している。

問10 ⑤が空欄IIを含む段落の次の段落にある「芸術作品には『内在的価値』がある…芸術作品の価値は、何らかの目的

のための道具としての価値ではありません」「人間以外のものにもこのような『内在的価値』、つまり単なる道具的な価値ではない、『それ自体での価値』を認める」、その次の段落の「動物を意味もなく殺すことは『それ自体で』（あるいはその生物自身にとって）悪い」という内容に合致している。

II

出典

浅井了意『浮世物語』〈巻第四 三 足る事を知るといふ事〉

解答

問1 ア② イ④ ウ① エ⑤ オ③
問2 ②

問3 a⑤ b③

問4 ア① イ④ ウ④

問5 い② ろ④ は①

問6 ④

問7 ①

問8 ③

問9 ⑤

解説

問2 傍線Aの次の文の「浮世房この話を聞いていふやう」以下最後までが浮世房の評である。最後の二文に着目すると、欲深く足ることを知らない者の具体例を挙げた上で、「人は欲心に頂なくして足る事を知らず。かの大上戸の酒に酔ひふして、よいころぢやといふには劣れり」と結んでいる。人は欲深くて満足することがない。あの酒飲みが酔って横になって、（これが）適量だと言うのよりも劣っている、ということである。

問5 い、「ほしいままに」は、好き勝手にの意。

ろ、前後の文脈から考えるとよい。「欲心に目くらみて…欲しがる故に、…災ひにかかる」と言っている。「欲心」を留めることをせずに欲しがつているから災いを受けるということ。

は、この設問も前後の文脈から判断する。「寒蟬」や「蜻蜒」の生き方から考える。

問7 「欲しがる故に、足る事を知らず」という状態である「人」と対比するかたちで、「寒蟬」などの例を挙げている。

①が正解。②は「不安定な日々を送る」、③は「身を持ち崩す」、④は「漫然と生きる」、⑤は「酒を飲まず」が、それぞれ不適。

問8 老子の「欲多ければ身をそこなひ、財多ければ身をわづらはす」という言葉を挙げ、「わづらはすとは、用心に隙なき心なり」「欲深き故なれば、これ災ひの本なり」と言っており、③はこの内容に合致している。

①「いづれ酒におぼれて失敗する恥知らずになる」が不適。

②「いづれ財産がたまるようになり豊かになる」とは言っていない。

④「はつかねずみは川の水を腹いっぱい飲んで満足しない欲深い動物」だとはしていない。

⑤「あらゆる財産は害をもたらす」とは言っていない。